

学校だより

翔 空

No. 19 平成24年 8月 27日 (月)
郡山市立喜久田中学校長 大堀 昌弘

「翔空」の由来

校舎のシンボル壁画である「空へ」を受け、風光明媚なこの学舎から、希望に燃え、限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

◇ 始業式にはこんな話をしました ◇

今日から2学期が始まりました。1学期の終業式に、みなさんをお願いしたことを覚えていて、2学期は、100点をめざして、部活動などに頑張りたいというものでしたね。特に、3つのCの中では、自分のコントロールする力、「悪いことに対しては、自分の心にしっかりとブレーキをかけて今日このできごと以外に2つほどお話があります。

1つは、サッカー部のことについてです。残念ながら、本校のサッカー部は善戦しながらも県大会の2回戦、福島県の中村一中に惜敗し、東北大会進出はなりませんでしたが、今思えば、5月18日付けの学校だよりで、部長の佐久間耐綺くんが、「自分たちのプレーをして、市中体連で優勝し、喜久田中の誇りとなりたい」とみんなに宣言したことから始まった快進撃は、現実のものとなり、県中大会も3位ながらも県大会へと進出。また、1回戦では強豪の中村一中を相手にPK戦の末やぶって2回戦に進みました。その翌日のスポーツ新聞では、キーパーの影山博樹くんを始め喜久田中のサッカー部は、その精神力の強さで大きく褒め称えられました。「夢はきっと実現する」そのためにも「自分で本当にやりたいことは、口に出して言う、つまり、他人にも宣言してしまう」ことの大切さを今回のサッカー部の戦いを通して感じました。みなさんにもぜひ、この精神を学校生活のいたるところに生かして欲しいと思います。

もう1つは、昨年度の始業式でもみなさんにお話ししたことなのですが、常に若い心と挑戦する心を持ち続けて欲しいというお話です。

かつて、サミュエル・ウルマンというアメリカの教育者が、「青春とは、人生の一時のことではなく心のもち方のことを言う。人が、若くあるためには、創造力・強い意志・情熱・勇気が必要であり、人は、年齢を重ねた時に年をとるのではない。」と言いました。私は、人が若いのは、結局のところ、心の持ちようであって、年齢そのものではない。だからこそ、いつまでも精神的に若い気持ちを持たねばならないということなのだと思いました。

みなさんは、12歳から15歳のまさに青春の真っ只中にいます。その貴重な青春時代を有意義に過ごしてください。1年などすぐに過ぎ去ってしまいます。今、3年生諸君は進路の実現に向けて、ようやく気持ちの整理をおこない、夢に向かって邁進し始めています。1・2年生のみなさんも部活動でも、秋に開かれる文化祭でも、学習でも何でも構いません。今のこの大切な時期を一日一日大事に過ごしてください。自分なりのできないことがきつとあるはずですが、それなりのあなただけの才能や時間やチャンスなどを十分に活かさないのはもったいないです。「自分のライバルはきのうの自分」といった考えを持ち、他人と比べるのではなく、毎日毎日自分の中で少しずつ進歩していきましょう。

2学期は82日と1年の中で一番長い学期でもあります。毎日何かしら行事や活動がある充実感のある学期です。秋の終わりには、収穫があるように、そして、冬になってから「アリとキリギリス」の話のようにならないように、今、今日のこの時、一日一日をがんばりましょう。挨拶がきちんとできて、部活動に一生懸命汗を流すことのできるみなさんならきっとできます。

以上、今回は、「夢はきっと実現する」という話と「若い心と挑戦する心を持ち続ける」という2つの話を紹介しました。2学期82日間みんなががんばりましょうね。

【お知らせ】「9月9日資源回収（7：30～10：30）」への協力依頼

夏休み前に一度声をかけさせていただいた資源回収のお知らせを再度いたします。

9月9日（日）14の方部に分かれて各PTA方部長さんのご協力をいただきながら資源回収を実施します。この奉仕作業の目的は、生徒のユニフォーム購入や県大会・全国大会等参加の経費を集めることです。生徒には、7月5日に方部ごと打ち合わせを開き、代表者確認や奉仕活動の内容について話し合いを持たせました。当日は、方部により集合時刻が異なります。（7：30～9：30の間）生徒自身の家の資源回収はもちろん、地域の方々からも協力していただきより多くの資源回収をお願いします。放射線を考慮して短時間（長くても3時間）で作業を行います。なお、小雨決行、実施のPTA会長による判断は7：00です。一斉メール（オクレンジャー）でお知らせします。

